

さらなる安全性向上に向けて

弊社は、2005年4月25日に発生させた福知山線列車事故の重大性を受け止め、「安全性向上の取り組み」を経営の最重要課題とし、具体的な実行計画を立て、さまざまな取り組みを進めています。

現在、5ヵ年計画として2013年4月に策定した「安全考動計画2017」に基づき、安全性向上に向けてJR西日本グループ全体で取り組んでいるところです。この計画では、達成すべき状態を数値目標として掲げることとし、「お客様が死傷する列車事故ゼロ」「死亡に至る鉄道労災ゼロ」を5年間を通じた目標に、「ホームにおける鉄道人身障害事故3割減」「踏切障害事故4割減」「部内原因による輸送障害5割減」を5年後の到達目標としています。

ルールや手順の遵守、確実な設備保全など日々の一人ひとりの地道な努力の積み重ね、リスクアセスメントを通じたハード・ソフト両面からの対策などにより、「お客様が死傷する列車事故」について「ゼロ」を継続しています。

また、「踏切障害事故4割減」「部内原因による輸送障害5割減」について、目標達成に向けて概ね順調に推移しており、「ホームにおける鉄道人身障害事故3割減」についても、継続した取り組みによりリスクの抑え込みを図っています。

一方、「死亡に至る鉄道労災ゼロ」については、計画初年度に続き、2016年度も協力会社社員が死亡する鉄道労災を発生させてしまいました。この事象を重く受け止め、これまでの取り組みを見つめ直し、必要な改善を実行し、「死亡に至る鉄道労災」を抑え込んでいきます。

2017年度は「安全考動計画2017」の最終年度です。「お客様が死傷する列車事故ゼロ」をはじめとする目標の達成に向けて、リスク管理の強化、ホームの安全性向上、激甚化する自然災害への対処、社員の異常時対応能力向上に取り組むとともに、全員参加型の安全管理を進め、グループ会社と連携して効果的なハード・ソフト対策に結び付けていきます。

さらに、2015年度から導入している第三者機関による安全管理体制に対する評価については、助言の趣旨を受け止めた上で、弊社に適する形で改善を進め、安全管理体制をさらにレベルアップさせていきます。

私たちの安全の取り組みに終わりはありません。「福知山線列車事故のような事故を二度と発生させない」という変わらぬ決意の下、将来にわたりこの事故を心に刻み続け、組織全体で安全を確保する仕組みと安全最優先の風土を築きあげるとともに、一人ひとりが安全の実現に向け、弛まぬ努力を積み重ねていきます。私自身が先頭に立ち、全員参加でさらなる安全性の向上に努めていく所存です。

本報告書は、弊社のさまざまな安全の取り組みについて、お客様や地域の皆様にご理解いただけるよう工夫して作成いたしました。ぜひご高覧いただくとともに、ご意見やご助言を賜れば幸いです。



代表取締役社長

来島達夫